

6月18日 キリストの聖体

命のパン

ヨハネによる福音書 6章 51～58節

「⁵¹わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

⁵²それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。⁵³イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。⁵⁴わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。⁵⁵わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。⁵⁶わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。⁵⁷生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。⁵⁸これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

他の朗読：申命記 8:2, 3, 14～16 詩編 147:12～15, 19, 20 I コリント 10:16, 17

Lectio …読む

ヨハネによる福音書 6章は、イエスがパン（と魚）を物理的に増やし、5千人以上の人々に与えた奇跡で始まります。その翌日、会堂でイエスは永遠の命を与えるために神から送られた生きたパンについてさらに広く教えます。

今日の福音朗読は、この教えの最後の部分で、「聖体」に焦点を当てています。厳密に言えば、「聖体—エウカリスティア」は感謝の祭儀を示すものです。それは、ミサの中で行われる、聖別されたパンと葡萄酒を受ける儀式を表します。カトリック信者は、パンと葡萄酒が聖別されると、それらはキリストの体と血となると信仰しています。他のキリスト者は異なった解釈をします。「最後の晩餐」の記念の象徴と理解しているのです。

カトリック信者は、パンと葡萄酒がキリストの体、血へと変化することを「聖変化」と言っています。それは、まさに「信仰の神秘」です。福音書も神学的議論には立ち入っていません。ただ、カトリック教会は、最初に、このことについて解釈したトマス・アクイナスの考えを採用しています。

ヨハネ 6章 25～59節の全般的な教えは、もっと一般的なものに留まっています。イエスは「わたしが命のパンである」と宣言しています（35、48節）。荒れ野でイスラエルの民のために神が与えた、身体の必要を満たすマナと、救いのための霊的な必要を満たす人の子への信仰とを対比させているのです。イエスは、ご自身のメッセージの源が天にいる神にあることを示すために、「天から降って来る」という表現をたびたび用いています（38、41、51、58節）。

40節は、この教えによって示される神の御心を次のように要約しています。「わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり…」

Meditatio …黙想する

イエスがご自分を命のパンであると述べていることの意義をよく考えてみましょう。

イエスはあなたの命のパンですか？ それはあなたにとってどんな実際的な違いをもたらすでしょうか。

感謝の祭儀、あるいは聖体拝領を祝うことは、あなたのキリスト者としての生活の中で、どのように重要なのでしょうか。

Oratio …祈る

祈りのうちにへりくだって、神の前に行きましょう。三位一体の神との相互の交わりの中で、イエスへの信仰を通して私たちが永遠の命を受け継ぐことができるように、ひとり子を「命のパン」として遣わされた神に感謝をささげましょう。この素晴らしい賜物に驚嘆しましょう。

Contemplatio …観想する

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。『取って食べなさい。これはわたしの体である。』また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。『皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。』」(マタイ 26 章 26 ~ 28 節)

今週は毎日時間を取って、あなたが赦されるためにイエスの死によって支払われた贖いに感謝をささげましょう。